

時計台

SAPPORO INTERNATIONAL COMMUNICATION PLAZA FOUNDATION

前から

vol.69
November/2009

財団法人 札幌国際プラザ

〒060-0001
札幌市中央区北1条西3丁目 札幌MNビル
Kita1 Nishi3, Chuo-ku, Sapporo 060-0001
JAPAN
TEL:011-211-3670 FAX:011-211-3673
E-mail:sicpf@plaza-sapporo.or.jp
URL:http://www.plaza-sapporo.or.jp

北海道の森林保全と環境への配慮のため、道産間伐材を原料にした用紙、有害廃液の出ない「水なし印刷」及び大豆インキを使用して作成しています。



P02

■ 市民交流

平成21年度大学生中国文化語学研修派遣プログラムほか



P06

■ 市民交流

第34回韓国を知るセミナーほか



P10

■ コンベンション

アジア最大のコンベンション 見本市へ出展 ほか



P12

■ インフォメーション

ミュンヘンクリスマス市 in Sapporo 開催のお知らせ ほか

友好交流と文化理解の15日間 平成21年度大学生中国文化・ 語学研修派遣プログラム

国際プラザでは、青年たちの異文化理解の促進と、国際交流発展の役割を担う人材の育成を目的とし、平成18年度より札幌圏の大学生を、札幌市の友好都市である中国遼寧省瀋陽市の遼寧大学漢語国際教育学院に派遣しています。現地では、文化・語学講座や文化体験、同大学日本語学部学生との交流会、市内文化・歴史施設への実地研修など多彩な短期研修プログラムを実施しています。

今回は、8月15日(土)～8月29日(土)の15日間で行われ、参加した11名の学生たちは積極的に研修に取り組んでいました。瀋陽市内においては、遼寧大学の研修プログラムに参加したばかりでなく、瀋陽市人民政府外事弁公室、在瀋陽日本国総



日中両国の文化紹介



領事館などを訪問しお話を伺ったほか、北海道銀行瀋陽駐在員事務所では、瀋陽市内の大学に在学する大学生との交流会も行いました。

さらに、今回は日本政府のODA政府開発援助の一環として建設された遼寧省葫蘆島市綏中県の高甸子中学校を訪問し、地元の学生と日本の伝統玩具を使った遊びや鬼ごっこなどをして交流したほか、北京市を訪れ、札幌市が現地に開設している札幌経済交流室などでの研修を行いました。

今回も多くの方のご支援・ご協力により、大変充実した内容の研修を実施することができ、学生たちは多くの収穫を得たものと思います。今後、学生たちが、日中両国はもとより、札幌市と世界とを結ぶ人材として活躍してくれることを願っています。



餃子作り

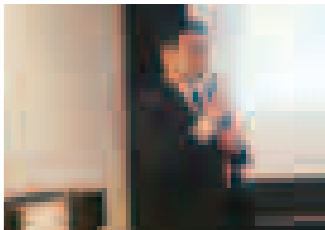
札幌圏大学国際交流フォーラム 設立20周年記念事業

札幌圏の大学・短期大学が国際交流等に関する情報交換を目的として1989年に設立した同フォーラムは、今年度発足20周年を迎えます。現在は23の大学および短期大学が会員校となり、事務局を国際プラザに置いて活動しています。去る10月24日(土)には、京王プラザホテル札幌を会場に、20周年記念事業として講演会および懇親会が開催されました。

講演会では、在大韓民国日本国大使館公報文化院一等書記官佐々木邦彦氏から「韓国への北海道・札幌の魅力的な情報発信方法について」文化・情報をもとに発信するべきか」というテーマにもとづきご講演をいただきました。札幌の持つ「食の安全安心」と「おいしさ」、そして「開放的な気質」など、多くの利点を、韓国に関心のある学生層をターゲットにアピールしていくことが重要であるとのことご提案がありました。



また、講演の内容をうけ、会員校23大学



から参加した韓国の留学生、日本人の学生、会員校の教職員が①札幌の食文化、②フロンティア文化としての北海道、③北海道における留学生活、④スポーツパラダイス北海道という各テーマグループにわかれてワークショップを行い、それぞれのテーマからどのように韓国へのPR発信を行うかを話し合いました。そして、各グループより「札幌は住みやすい」「食べ物がおいしい」「人がやさしい」「年中スポーツを楽しめる」など、札幌の良さが次々と挙げられ、それらを活かして札幌を強くアピールしていきたいという発表も行われました。その発表をうけ、韓国日本語教育研究会前会長呂善九氏から各グループへの講評がありました。呂氏は、熱心に討論し発表する学生に対し「これからも札幌に韓国の学生が多く来てもらえるよう、積極的にアピールしてほしい」と期待を寄せられました。



講師 呂善九氏

多文化共生事業 外国籍の児童に対する 学習支援 夏季プログラム

去る7月27日(月)～8月4日(火)の日程で、外国籍の児童に対する学習支援・夏季プログラムを行いました。このプログラムでは、外国語ボランティアネットワーク多文化共生グループ「LINK」のメンバーが、学校長期休暇期間中に、小中学校へ通う外国籍児童に対し、宿題の支援をしています。

夏季プログラムには7カ国23名の外国籍児童が参加し、延べ50名のボランティアが漢字の書き取り、作文、算数などの宿題の支援を行いました。今回のプログラムを最後に母国に帰国する児童へ向けたメッセージカードを作成したり、最終日にはピクニックをしたりと、参加児童、ボランティアが共に楽しみながら学ぶプログラムとなりました。



国際プラザでは、冬休み期間にも同事業の実施を予定しています。

多文化共生事業 第9回さっぽろ秋歌まつり 国籍や文化のちがいを越えて

国際プラザが実施しております多文化共生事業の一環として、8月23日(日)に「第9回さっぽろ秋歌(ヤンガーまつり)を北海道中国帰国者連合会との共催事業として開催しました。



この事業は、中国の伝統行事「秋歌節」を通し日中の文化交流を深め、また札幌在住の外国籍市民の参加により、帰国者、外国籍市民、日本人市民の相互理解・交流を深める目的で開催しております。

今年度は一般市民を含め参加者約200名が、中国帰国者の皆さんによる秋歌踊り(龍の舞、高足踊り他)、太極扇などに加え、韓国、タイ、フィリピンの方々による歌や踊りなど国際色豊かなプログラムを楽しみました。

多文化共生社会の構築には、相互理解が重要です。本事業は、国籍や文化のちがいを越え、参加者が互いに心を近づける貴重な時間となりました。

多文化共生事業 医療英語セミナー 診察で使用される英語表現を学ぶ

医師や看護師などの医療サービス提供者と、日本語を母語としない外国籍患者との間で異言語の通訳を行なうことを「医療通訳」といいます。8月23日(日)、「医療英語セミナー」…診察で使用される英語表現を学ぶ」と題し、医療通訳入門編のセミナーを開催しました。

セミナーでは、日本英語医療通訳協会理事の押味貴之氏を講師にお招きし、医療通訳の基本的なルールやプロセス、医療通訳を行なう上で必要なスキルについての説明のほか、実際に診察で使用されることの多い表現や教材VTRを使用しながらのグループワークなどを行ないました。押味氏のわかりやすく、ユーモア溢れるお話しに、55名の参加者は熱心に耳を傾けていました。

今回のセミナーは、申込み受付開始後数時間で定員に達し、医療通訳・外国人医療に対する関心の高さがうかがえました。



外国籍市民防災事業 防災ツアー2009 外国籍市民対象に防災訓練を実施

国際プラザでは、万一の災害発生時に日本人市民と外国籍市民とが助け合って避難生活を送ることができるよう、防災に関する活動を行っております。

去る9月1日(火)、外国籍市民のための「防災ツアー2009」を開催し、豊平川河川敷を会場に行われた札幌市総合防災訓練に参加しました。

会場を有効に利用した仮設橋設営や水防訓練などの大掛かりな訓練の見学、水消火器やバケツリレーによる消火訓練、土のう作成、AEDを使用した応急処置などの有意義な体験型訓練に、参加者は積極的に取り組みました。

今回は、外国籍市民、北海道インターナショナルスクールの教師・生徒、計26名の参加者に加え、外国語ボランティアネットワーク多文化共生グループ(SKV)のメンバー5名が参加者への通訳・案内で活躍しました。



㈱ベルックス 札幌市中央区北5条西12丁目2番地 ☎011-271-4121

1987年10月入会。当社は、1957年9月1日に創業し、ビルメンテナンス総合管理業として、ビル内に勤務される方は、勿論、出入りされる方々への健康管理、環境と安全維持の為に設備保守、

警備、清掃などの業務を実施している会社です。

池田食品(株) 札幌市白石区中央1条3丁目32番地 ☎011-811-2211 http://www.ikedac.co.jp

1990年11月入会。1987年国際プラザが発足する年に私は札幌青年会講所で日米地域間交流に参画した。其れが縁となり以来22年にわたりお世話になっている。当時、所謂プラザ合意の現場で急激な円高(当時150

円)を体験し規制緩和や世界ビジネスを学びました。北方都市会議は我々中小企業に大きな力を与えてくれ、私の心のふるさともなっています。今後も、市民発の国際交流や観光、地域貿易の為に更に活躍してください。

ボランティア3団体による「国際交流ボランティアフェスタ」開催!

国際プラザには「札幌国際プラザ外国語ボランティアネットワーク」、「札幌国際プラザ日本文化体験ボランティア」、「札幌ホームステイ協会」という3つのボランティア団体が登録しています。10月17日(土)、3団体による交流イベント「国際交流ボランティアフェスタ」が国際プラザ5Fホールと3F交流サロンにて開催されました。

これまでは「3V(さんボラ)交流会」と題し、互いの活動を学び合い、交流を深めることを目的に3団体の会員のみでの交流会を行ってきました。今年度は「多くの市民に活動を紹介しよう」ということで、名前も新たに、「誰でも参加できる交流イベント」として実施しました。



ボランティアの活動紹介に耳を傾ける参加者

札幌「ミュンヘン姉妹都市提携第28回ドイツ語暗唱大会」

去る10月3日(土)、札幌姉妹都市協会、国際プラザの共催により国際プラザ5Fホールにおいて「第28回ドイツ語暗唱大会」が開催されました。

大会には、幅広い年代(20代〜70代)のドイツ語学習者8名の方々が出場しました。

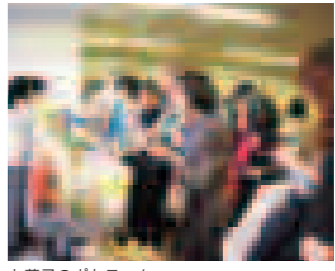
今年度は、トーマス・マンの『ブッデンブローク家の人々』、アンネ・フランクの『アンネの日記』、フリードリヒ・フォン・シラーの詩『歓喜に寄せて』のそれぞれ一部分が暗唱課題に選ばれ、出場者の皆さんはその1題を選択し、日ごろの学習成果を発表しました。

出場者のドイツ語に対する熱意や、日々の努力そして長年学習を継続している方々に対し審査員の方々は大変感激していました。



この大会が、今後も札幌の姉妹都市である「ミュンヘン市」への理解と交流促進の一つとなることを期待しています。

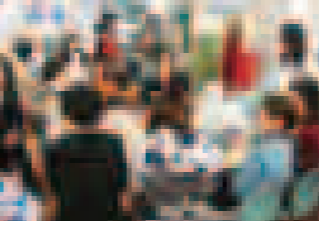
レゼンテーションの他、浴衣の着かた実演、振袖着付けショー、折り紙教室、ホームステイの再現劇など、それぞれ工夫を凝らした活動紹介を披露し、会場は大いに盛り上がりました。休憩時間も、茶道体験やお菓子のボトラックなど、お楽しみが盛りだくさん!会場は終始笑顔に溢れていました。



お菓子のボトラックなど、お楽しみが盛りだくさん!会場は終始笑顔に溢れていました。

また3F交流サロンでは外国語ボランティアネットワークが主催された「多言語でレッツトーク」が開催されました。計8カ国語でのフリートークということで、言語ごとにテーブルを設け、参加者は多言語での交流を楽しみました。各国のお菓子も並び、美味しい香りと多言語が飛び交う豊かなひと時となりました。

初めての試みでしたが、会場は大勢の参加者で賑わい、3団体間の交流だけではなく多くの市民に活動を紹介し交流を深めることができました。当日新規外国語ボランティア登録もあり、国際交流ボランティアフェスタを通してまた新たな力が芽吹いています。



多言語でレッツトーク

第19回ロシア語詩のつどい

9月12日(土)、日本ユーラシア協会札幌支部、札幌姉妹都市協会、国際プラザの共催で、「札幌ノボシビルスク姉妹都市提携記念第19回ロシア語詩のつどい」が国際プラザ5Fホールにおいて開催されました。

日ごろロシア語を学ぶ方々が好きな詩をロシア語で朗読することのつどいの今年度のテーマは「ロシアの自然」。第1部では自然をモチーフにしたロシアの詩が日本語とロシア語で暗唱・朗読されました。ロシアの有名な詩人によるロシア語の詩と、朗読者自らが訳した日本語の朗読に、聴衆は聞き入っていました。

第2部は、モスクワ出身でロシア語の通訳・翻訳家として活躍しているイーゴリ・コピトフさんと札幌市国際交流員のイリーナ・シユクリナさんをスピーカーに迎えてのトークショーが行われ、ロシア社会において詩が果たす役割がわかりやすく紹介されました。



第2回ノボシビルスク日本語青年訪問団来札!

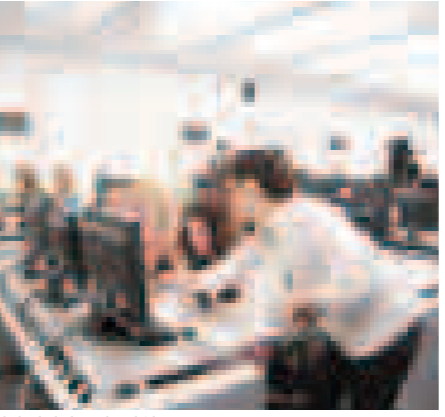
去る7月3日(金)〜7月15日(水)まで、札幌市の姉妹都市であるロシアのノボシビルスク市から、日本語の勉強をしている大学生・社会人4名(ノボシビルスク日本語青年訪問団)が来札しました。国際プラザでのノボシビルスクからの日本語青年訪問団の受入は、昨年に引き続き2回目となりました。

訪問団は7月3日(金)の夜に来札し、13日の間札幌に滞在しながら、札幌市立札幌女子大学訪問交流



ロシア語レッツトークスペシャル

訪問団は7月3日(金)の夜に来札し、13日の間札幌に滞在しながら、札幌市立札幌女子大学訪問交流

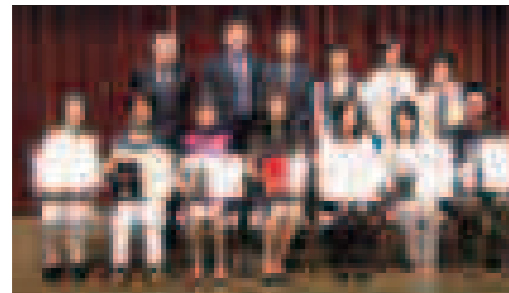


札幌市立大学訪問交流

第27回中国語暗唱朗読大会

9月27日(日)、北海道日中友好センター、札幌姉妹都市協会、国際プラザの共催で、「札幌・瀋陽友好都市提携記念 第27回中国語暗唱朗読大会」が札幌国際交流館ライラックホールにおいて開催されました。

この大会では、参加者は「朗読の部」と「暗唱の部」に分かれて中国語の力を競います。中国語の発音の正確さはもちろんのことですが、声の抑揚や表情など表現の豊かさも採点の対象となります。特に「三国志」に題材を取った「暗唱の部」の課題文では、城を守る孔明と敵との息つまる攻防が臨場感たっぷり発表されました。また、11名が参加した「朗読の部」の課題文は、日本人にも親しみのある餃子の歴史に関するものでした。どちらの部門も、参加者の日頃の中国語の学習成果が存分に発揮され、非常にレベルの高い大会となりました。



課題文は、日本人にも親しみのある餃子の歴史に関するものでした。どちらの部門も、参加者の日頃の中国語の学習成果が存分に発揮され、非常にレベルの高い大会となりました。

札幌ポートランド姉妹都市提携50周年記念「ポートランドを知るセミナー」を開催

10月22日(土)に札幌すみれホテルにて、札幌ポートランド姉妹都市提携50周年記念「ポートランドを知るセミナー」が札幌の国際交流の原点(主催:札幌姉妹都市協会)を開催しました。長年札幌の姉妹都市交流にご尽力された、講師の杉岡昭子元国際プラザ専務理事からは、札幌の姉妹都市提携の歴史、提携当時のアメリカの様子、交流に携わった方々のエピソード、ポートランドへの思いから、経済交流、青少年育成まで、幅広くお話いただきました。後半は、札幌姉妹都市協会の村山会長と今後の姉妹都市提携のあり方などについて熱い議論が交わされました。セミナーには約160名の市民の方が参加し、講師の話に熱心に耳を傾けていました。



日本文化体験「着付け」



講師 杉岡昭子氏

札幌市中央区北2条西2丁目4番 マルホビル 710 ☎011-222-4248 <http://www1.ocn.ne.jp/~oisca-h/>

団体賛助会員 紹介コーナー

1987年10月入会。オイスカはアジア太平洋地域を中心に、環境保全、人材育成、技術協力などを展開しているNGOです。北海道支部の主な活動は当別町の道民の森で学生、子供達との植樹、間

伐材で作った1万個の積み木を使用し、小学校、児童会館、町内会館で開催している「森の積み木広場」、チャリティーディナーコンサート等です。

札幌市中央区南2条東1丁目 第3泊ビル6階 ☎011-251-7980 <http://www.mash-net.co.jp/>

1989年4月入会。「ビジュアルコミュニケーション」をテーマに企画制作を行っている会社で、札幌国際プラザ発足当初からお付き合いをさせていただいております。IMEでは過去3度展示会場製作をさせて

いただきました。その他、学会等の開催告知ポスター制作や、PIARC(国際冬期道路会議)での日本展示ブース製作に関わり、2010年ケベック大会に於いても展示ブースの企画に参加しております。

第34回韓国を知るセミナー 韓国の民族衣装「ハンボク」の魅力!

国際プラザでは、日本と地理的に近い韓国への理解を深めることを目的として、「韓国を知るセミナー」を実施しております。

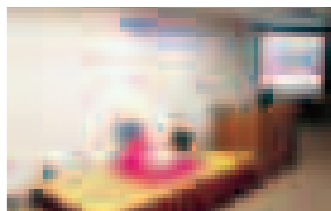
8月6日(木)、札幌市国際交流員カン・ミンジョンを講師に「第34回韓国を知るセミナー」が開催されました。

今回のセミナーは、韓国の民族衣装である「ハンボク」がテーマでした。日本では、「韓国の民族衣装」といえば、「チヨゴリ(上着)」と「チマ(スカート)」を組み合わせた女性の鮮やかなドレスが有名ですが、この日は男性の伝統的な民族衣装やハンボクの歴史なども含めたハンボクについての様々な事例が紹介されました。

セミナーはまず紀元前4世紀高句麗時代の壁画から始まるハンボクの歴史を見ることが始まり、時代ごとのハンボクの形の変化を追うことにより韓国社会の変化に注目しました。また女性のハンボクに華やかな原色が使われている理由は、韓国で得られた天然染料植物が50種類も

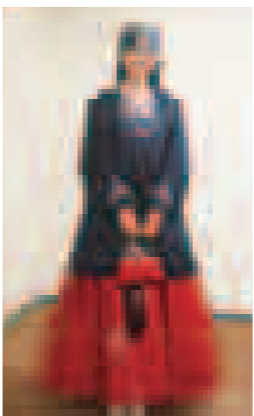


ハンボクを着た女性たち。ハンボクは、韓国で得られた天然染料植物が50種類もあり、そこから約100種類以上の色を作り出すことができたためだといふこと、そして華やかな色がある中で韓国人に一番愛された色は「白」であり、実際は「白」であり、



最後に韓国伝統のお辞儀である「チヨル」が講師によって紹介され、参加者からは「チヨルに感動した」「ハンボクのことがよくわかって勉強になった」「すばらしかった、韓国をますます好きになった」などの感想が寄せられました。

最後に韓国伝統のお辞儀である「チヨル」が講師によって紹介され、参加者からは「チヨルに感動した」「ハンボクのことよくわかって勉強になった」「すばらしかった、韓国をますます好きになった」などの感想が寄せられました。



女性ハンボク

札幌ポルトランド姉妹都市提携50周年記念 第41回英語弁論大会

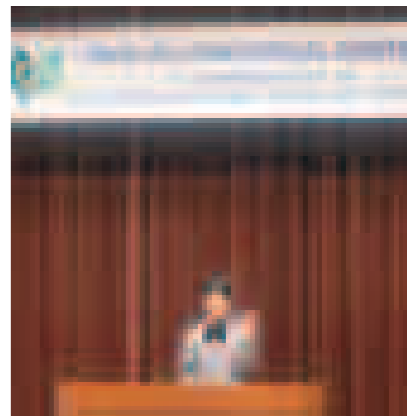
10月25日(日)と11月7日(土)の2日間、リフレ札幌ライラックホールにおいて、第41回英語弁論大会(主催:札幌姉妹都市協会、札幌市教育委員会、姉妹校連絡会、国際プラザ)が開催されました。

今年も参加者は大学・一般の部、高校の部、中学の部の3部門に分かれ、日頃の英語の学習成果を競い合いました。

高校の部と中学の部では「私の夢」「私が伝えたい日本のよさ」のいずれかをテーマとして、大切な夢や日本について誇れると思うことを英語で発表しました。高校の部では地球環境問題についての考察を見事な英語で語った北海道札幌南高校の森愛莉さんが、そして中学の部では「絵本作家になりたい」という夢を感動的なスピーチを披露しました。



中学の部入賞者



高校の部で優勝した森愛莉さん

また、大学生を中心に25名が参加した大学・一般の部では、ゲスト審査員としてスコット・ガブティル氏(ポルトランド・札幌姉妹都市協会(PSSCA)名誉会員)と本間千代子氏(PSSCA理事)の二人のポルトランド市民が審査に参加し、札幌とポルトランドの姉妹都市提携が50周年を迎える記念すべき年の大会であることを印象づけるものでした。「母たちよ、大志をいだけ!」というタイトルのスピーチで優勝した牧野ひろみさんは、「優勝できてとても嬉しい。トロフィーは本当に重いです」と笑顔で話していました。

中学の部の上位入賞者2名、そして高校の部の優勝者と大学・一般の部の優勝者は、ポルトランド親善使節として来年3月にアメリカ・オレゴン州ポルトランド市に派遣される予定です。

弁護士・行政書士による 外国籍市民無料相談会

国際プラザでは、在留資格の変更・離婚・交通事故・就労などの法律問題を抱えている外国籍市民への援助として、無料法律相談会を行っています。

9月26日(土)、外国人法律支援ネットワークとの共催により「外国人のための法律セミナー」ならびに「無料法律相談会」が開催されました。講師の弁護士が日本の法制度、労働問題、ビザについて説明を行い、参加者はメモを取りながら熱心に聞き入っていました。セミナー後の質疑応答では、永住権の申請方法や婚外子の日本国籍取得についての質問がありました。



10月2日(金)には北海道在留手続協議会所属の行政書士による国際結婚・在留資格等の相談会が行われ、相談者からは「具体的なアドバイスが大変役に立った」などの声がかれました。

カルチャーナイト2009 クイズで知ろう! さっぽろの姉妹都市+ソウル

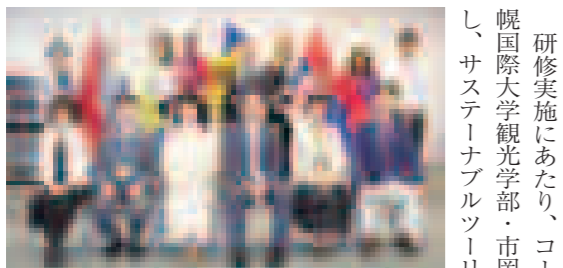
7月17日(金)、国際プラザ3F交流サロンにおいて、「カルチャーナイト2009クイズで知ろう! さっぽろの姉妹都市+ソウル」が開催されました。札幌市の姉妹都市である4都市(ポルトランド、ミュンヘン、瀋陽、ノボシビルスク)のある国と韓国の国際交流員が5つの都市に関する三択クイズを通して市民と交流を深めました。参加した親子はクイズを通して5つの都市の知識を楽しみながら増やすとともに、クイズの出題者である国際交流員とふれ合うことで気軽に国際交流も体験しました。



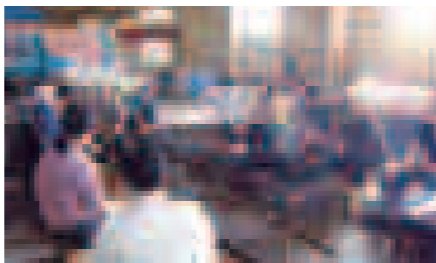
「ミュンヘンの名物料理は何?」(答え:白ソーゼージ)「ノボシビルスクにある有名な博物館は何の博物館?」(答え:鉄道博物館)「ソウルの人口は韓国全体の人口の約何パーセント?」(答え:約20パーセント)などのクイズの答えが発表されるたびに、参加者は歓声を上げ、子どもたちは「楽しかった」「国際交流員に会えて嬉しい」と笑顔で話していました。

南東欧地域4カ国6名の 行政官が3週間にわたり研修 JICA地域別研修(観光振興)コース

札幌コンベンションセンターでは、8月14日(金)からの約3週間、JICA独立行政法人国際協力機構 地域別研修「南東欧地域・自然環境保全に配慮した観光計画・振興」コースの実施受入を行いました。このコースは、南東欧地域での観光産業の位置づけの高まりや意義の増大に伴い、観光行政に従事する行政官を対象に、持続可能な観光(サステナブルツーリズム)開発・振興政策等の実務能力の向上を計ることを目的としてスタートしたものです。3年コースの初年度にあたる今年度は、4カ国(アルバニア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、モルドバ、セルビア)から6名の研修員を受け入れました。



4カ国から6名の研修員が参加。研修実施にあたり、コースリーダーを札幌国際大学観光学部・市岡浩子教授に依頼し、サステナブルツーリズムを主要テーマに据えたカリキュラムを作成しました。講義では国や北海道、地方都市における観光政策をはじめ、道内外から観光第一入賞者を講師に招いてサステナブル



浜中町にて番屋体験プログラムに参加。ツアーリズムやエコツアーリズムの様々な事例を取り上げました。研修後半に設けたフィールドトリップでは、道東の湿原地帯を訪れ、地元の環境資源に配慮しながら観光客を集める住民の具体的な取り組みを視察するなど、充実した内容となりました。

札幌コンベンションセンターが観光コンベンション分野で培ってきた実践的な経験やノウハウ、人的ネットワークも生かしたプログラムは、参加した研修員からも高い評価を得ました。こうしたJICA事業への受け入れ協力は、札幌の知名度向上及び国際交流促進につながることから、当センターとしては今後も積極的に関わっていきたいと考えています。



霧多布湿原にて木道作りを体験

札幌三信倉庫(株) 札幌市白石区東札幌6条1-2-30 ☎011-833-3434
http://www.sanshin34.co.jp

団体賛助会員 紹介コーナー 2009年9月入会。札幌三信倉庫は、企業物流では、医薬品、スイーツ業界などの保管・加工・配送を。また、企業の文書保管を提供しております。個人向け商品として、トランクルーム・貸金庫・季節品の保管などを提供しております。いずれも最新式のセキュリティによるサービスがご利用できます。

(株)富士メガネ 札幌市中央区南2条西1丁目3番地 北博ビル9F ☎011-222-2859
http://www.fujimegane.co.jp

団体賛助会員 紹介コーナー 2000年12月入会。全国68店舗、札幌に34店舗を展開する富士メガネは、創業71周年を迎えました。プロフェッショナルなメガネ店として、(社)日本眼鏡技術者協会の「認定眼鏡士」292名を擁し、豊富な知識と確かな技術でお客様のライフスタイルに合わせたメガネのアドバイスをさせて頂き、一人でも多くの方に「見る喜び」をお届けしたいと願っています。

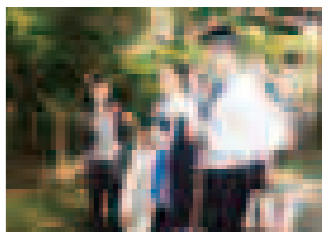
会議開催支援

札幌コンベンションビューローでは、札幌市内で開催される国際会議・国内大会に対して、市民ボランティアの協力を得ながら、札幌を訪れた参加者の方々に快適な滞在をご満喫いただけるよう各種支援を実施しています。

7月10日(金)から12日(日)に札幌コンベンションセンターで開催された「第4回日本・豪州合同皮膚科学会」では、外国語ボランティアによる観光情報提供やシティウォークを行いました。また、9月28日(月)から10月2日(金)に札幌コンベンションセンターで開催された、世界の貿易円滑化と電子化を推進する貿易円滑化と電子ビジネスのための国連センター(略称・国連



日本文化体験「着付」(国連CEFACT)



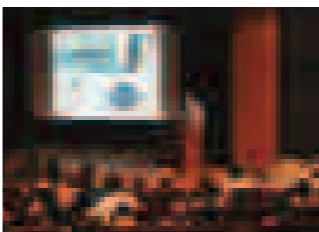
シティウォーク(日本・豪州合同皮膚科学会)

CEFACT)による「第15回国連CEFACTフォーラム」には、世界約30カ国から約270名の参加者が集いました。日本文化体験ボランティアによる茶道・華道・着付体験プログラムを実施し、多くの会議参加者・同伴者の好評を博しました。

このほか、7月26日(日)から31日(金)に北海道大学学術交流会館で開催された「第10回南極科学研究委員会国際生物学シンポジウム」の会期中には、南極昭和基地とテレビ中継で結んだ市民向けシンポジウムが実施され、中高生を含む約250名の市民が参加しました。

このように、市内で会議を開催することは地域情報の発信の機会や経済効果をもたらすのみならず、さまざまなふれあいを通じて市民の視野を広げ地域の国際化にもつながります。

札幌コンベンションビューローでは、これらのさまざまな効果が複合的に組み合わって地域の発展につながるよう、今後も積極的に会議誘致・支援に取り組みしていきます。



南極基地と結んだ市民向けシンポジウム

第14回核融合炉材料国際会議(ICFRM'14)支援

9月6日(日)から9月11日(金)の日程で、札幌コンベンションセンターにおいて「第14回核融合炉材料国際会議」が開かれました。この会議は、「核融合」の分野で最も重要な国際会議のひとつで、日本では6年ぶり5度目の開催となりました。

「核融合」とは、新しい次世代のエネルギー源(発電)の候補のひとつで、①海中に多く含まれる重水素を使用するため、化石燃料(ガソリン/石炭など)と違い、燃料枯渇の心配がない(環境/資源面)②融合炉が壊れた場合は反応自体が停止し、また反応の結果できるものはヘリウムである為、原子力発電(反応)と違い放射能の心配がない(安全性)など、非常に期待



市民ボランティアによる「インフォメーション・デスク」

中国インセンティブツアー誘致プロモーション

現在、札幌コンベンションビューローでは、インセンティブツアー誘致の主要ターゲットを中国に絞り、精力的にプロモーション活動を展開しております。

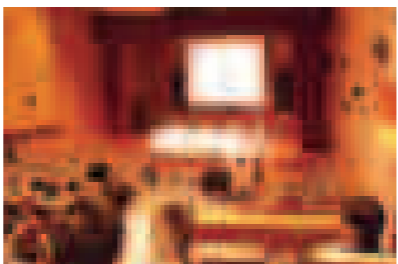
国際プラザ・アジア担当MICEアドバイザーである唐若氏の協力による現地での関係団体訪問や情報収集の成果として、北京や上海など中国主要都市からのインセンティブツアーや企業グループツアーの開催が徐々に増えつつあります。

今後の更なる誘致活動の展開に向けて、去る9月7日(月)~11日(金)、MICE専門見本市「CIETM (China Incentive, Business Travel & Meetings Exhibition)」



JNTOの日本ブース

参加にあわせて、北京市を訪問しました。



見本市ではMICE関連のセミナーも開催されます

CIETMにはトレジャー・ビジターという形で参加しました。日本が、日本バイヤーの状況を調査するとともに、旅行エージェンツやツアー主催者(企業クライアント)の昨今の変化・動向について情報収集を行いました。

また、今年3月に行った誘致プロモーションに引き続き、大手旅行会社への継続的な個別訪問を実施するとともに、インセンティブツアーを主催する大手企業への直接セールスも行いました。

インセンティブツアー造成において、他とは違うユニークな場所や企画のアイデアが必要不可欠となり、海外の主催者、旅行エージェンツは常にそれらを求めています。また、受入サイドの細やかな継続的な支援がツアーを成功させる大きな要因となります。今後、札幌コンベンションビューローでは誘致プロモーションとともに、札幌・北海道で提案できるユニークな会場やツアーを盛り上げるイベントの発掘など、地元受入態勢の強化に力を入れていきます。

札幌のコンベンション環境を世界へ発信

英国大手雑誌の取材受入

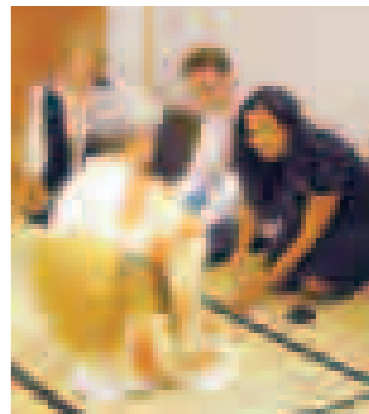
札幌コンベンションビューローでは、6月26日(金)、27日(土)の2日間にわたり、日本政府観光局(JNTO)がビジット・ジャパン・キャンペーン事業として実施した、英国大手コンベンション雑誌の取材受入への協力を行いました。

大阪、東京に引き続き行われた取材では、北海道・札幌ならではのホスピタリティやくつろぎの空間をテーマに記者をお迎えしました。札幌コンベンションセンターや各種ホテルなどのコンベンション施設のほか、パーティー会場として好評な大倉山スキージャンプ競技場や、サッポロピリカコタンや定山溪温泉、小樽での握り寿司体験など充実したアフターコンベンションプログラムを紹介しました。各取材先での温かいおもてなしに、参加した記者からは「札幌は、何より訪れた人を特別な気分させてくれる街」とのコメントが聞かれました。



北海道独自のアイヌ文化について取材

こうした取材受入をはじめ、誘致活動として国内外のコンベンション主催者へむけて札幌の魅力発信を続けていきます。



日本文化体験「茶道」

される研究分野であります。近年、実際の装置を使った実験段階を経て、いよいよ実用化するための本格的な局面を迎えるこの重要な時期に日本で開催されることは、研究レベルのより一層の向上だけでなく、日本の同分野における主導的立場を高めることにもつながり、非常に重要な意味を持っています。参加者も、約40カ国から500名を超える参加となりました。

また、広く市民の皆様にも「核融合」に関して、知識と興味を持っていただくようと、会議に先立ち9月5日(土)に市民公開講座「サイエンス・カフェ」が、札幌ステラプレイスの三省堂書店で催され、多くの市民が熱心に参加していました。札幌コンベンションビューローでは、この会議の誘致の段階から、開催提案書の作成など積極的に支援しており、開催にあたっては、札幌市長の挨拶や、外国語ボランティアの方々による「同伴者への日本文化体験」、参加者に対するシティインフォメーションデスク、市民公開講座の広報などの支援を行いました。

全国初「グリーンコンベンションサポート」を開始

CO₂削減などの環境配慮への取組みが各分野で導入されているなか、国内・国際会議開催においても環境に配慮した運営が求められてきています。札幌コンベンションビューローでは、全国に先駆けて、札幌で開催されるコンベンションの事務局支援の一環として、主催者に対し環境にやさしい運営・取り組みの事例紹介や提案を行い、エコフレンドリーな会議運営の推進を目指しています。

また、環境省が策定した「会議等の環境配慮のススメ」をもとに、札幌独自の環境配慮への取り組み項目リストを作成し、一定数以上の取り組みを導入している会議を「グリーンコンベンション」と認定し、各種サポートするシステムを試験的にスタートさせました。主催者の先生をはじめ、会議参加者の多大な理解と協力を得て、この夏「日本機械学会 Dynamics & Design Conference 2009」と「第46回国際低温生物学会(CRYO2009)」の2つの会議を、国際プラザの「グリーンコンベンション」と認定しました。今後に向けて、さらに札幌におけるエコフレンドリーな会議開催の実績を重ねていく予定です。

コンベンションカレンダー 2009年11月～2010年5月

札幌コンベンションビューローでは、札幌市内で開催が予定されている主なコンベンションで、主催者側から公表が許可されているもののみ、ホームページ上の「コンベンションカレンダー」にて公開しております。コンベンションカレンダーは半期に一度更新をおこなっており、約1年先までの開催情報だけではなく、既に開催された過去の情報も提供しております。

<http://www.conventionsapporo.jp/j/meeting/calendar/calendar.html>

国際コンベンション

11月	第2回センネル・アース国際シンポジウム 「衛星データ・衛星画像データの高度利用研究」	(150名)
11月	第4回応用倫理国際会議	(120名)
11月	国際シンポジウム 「先住民族と自然資源－持続的資源利用の視点から－」	(200名)
11月	22nd International Microprocesses and Nanotechnology Conference (MNC2009)	(400名)
11月	講演会「スウェーデンの認知症対応に学ぶ集い」	(300名)
12月	ECO Design 2009	(200名)
5月	International Conference on Electronics Packaging 2010 (ICEP2010)	(300名)

国内コンベンション

11月	第19回日本乳癌検診学会総会	(1500名)
11月	グリーン購入全国フォーラム in 北海道	(300名)
11月	市町村議会議員研修会 第8回札幌研修会	(300名)
11月	第30回バイオメカニクス学術講演会 (SOBIM2009 in Sapporo)	(200名)
12月	第79回獣医麻酔外科学会/第91回日本獣医循環器学会 2009 秋季合同学会	(400名)
5月	日本材料学会 第58期通常総会 学術講演会	(400名)
5月	第64回 NPO 法人日本口腔科学会学術集会	(1800名)
5月	2010JAIFA 年次大会 in 札幌	(3000名)
5月	日本農業学会第35回大会	(400名)

コンベンション誘致・開催支援に関する各種お問合せ

当ビューローでは、独自のコンベンション誘致・シティ PR 活動を行うとともに、具体的にコンベンション開催をご検討される主催者の皆さまに心のこもったコンサルティング・サービスを展開しています。電話・FAX・電子メールのほか、ウェブサイトに設置のオンライン・フォーム（日本語、英語）をぜひご利用ください。

■問い合わせ先

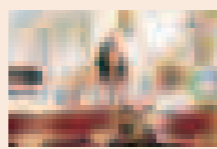
札幌国際プラザ・コンベンションビューロー
TEL:011-211-3675
FAX:011-232-3833
E-mail:convention@plaza-sapporo.or.jp
<http://www.conventionsapporo.jp/j/>

(東京事務所)

〒100-0006 東京都千代田区有楽町2丁目10番1号 東京交通会館3階
TEL:03-3216-5090
FAX:03-3216-5199

サロン・カウンター よくある質問 Q&A

交流サロンの案内カウンターでは、国際交流に関する情報や外国籍市民向けの生活、観光情報を提供しています。ここでは、案内カウンターにいらっしゃる方から実際によくある質問にお答えします。



Q.英語を話す機会を探しているのですが。

国際プラザでは、外国語でのフリートークを通じて異文化交流を楽しんでいただくプログラム「レッツトーク」を開催しています。英語の他にも、中国語、韓国語、ロシア語、ドイツ語のプログラムがあり、各言語を母国語とする国際交流員が参加しています。また、「レッツトーク

日本語」では、日本語ボランティア「窓」のみなさんが外国籍市民を対象に日本語を教えてください。参加無料、申込不要ですので、ご都合のよろしいときにお気軽にご参加ください。

中国語	月曜日	12:20～13:20	3階交流サロン
英語	火曜日	12:20～13:20	3階交流サロン
ハンガール	水曜日	18:00～19:00	3階交流サロン
ロシア語	水曜日	18:00～19:00	5階ホール
日本語	第2・第4水曜日	14:00～15:30	3階交流サロン
ドイツ語	第2・第4水曜日	18:00～19:00	3階会議室

■お問合せ先

国際プラザ市民交流部 レッツトーク担当
TEL:011-211-2105 FAX:011-232-3833
※詳しい内容は下記ホームページでもご覧いただけます。

http://plaza-sapporo.or.jp/citizen_j/lets_talk/lets_talk.html

■交流サロン

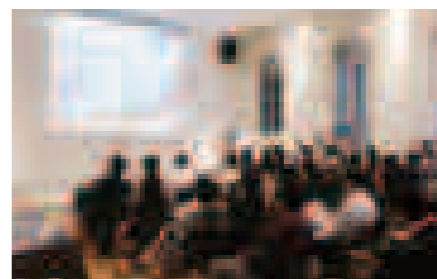
住所：札幌市中央区北1条西3丁目札幌MNビル3F
電話番号：011-211-3678
開館時間：月曜～土曜 9:00～17:30
※日曜・祝日・12/29～1/3 休み



IT&CMA2009

札幌プールの冬・雪だるまをモチーフにした手作りの装飾は、今年も多くのバイヤーの目を引き、ヨーロッパやインドなど新たなマーケットからバイヤーも多数ブリスを訪れ、東南アジア地域以外での札幌への関心の高さも伺えました。

今回の海外出展では、旅行代理店だけでなくコンベンションやインセンティブの担当者となる学会関係者や一般企業の担当者との人脈も広げることができました。開催決定権を持つキーパーソンとのつながりを具体的な案件に結び付けられるよう、今後の誘致支援活動に生かしていきたいと考えています。



シンガポールセミナー

シンガポールセミナーの後、出席者と各都府市のブリスで個別に商談する時間が設けられ、札幌プールのブリスには、札幌といえ

アジア最大のコンベンション 見本市へ出展 IT&CMA 2009、シンガポールセミナー

IT&CMA 2009

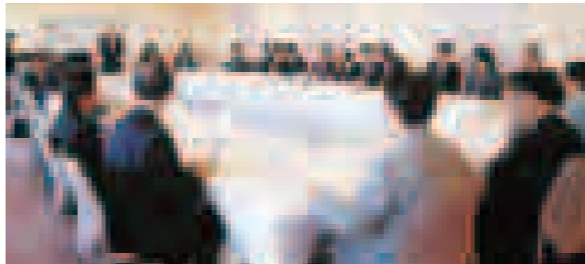
10月6日(火)から10月8日(木)の3日間、わたり、タイ・バンコクにて Incentive Travel & Conventions Meetings Asia 2009 (以下、IT&CMA2009)が開催されました。IT&CMA2009は、40カ国、約340名のバイヤーと31カ国、約250団体および企業が参加するアジア有数の国際コンベンション見本市です。7回目の参加となる札幌コンベンションビューローは、今年も単独で出展参加し、中国、香港、シンガポール、マレーシアなどアジア地域からのコンベンション、インセンティブツアー主催者、旅行エージェンツを中心に54件の商談を行いました。札幌プールの冬・雪だるまをモチーフにした手作りの装飾は、今年も多くのバイヤーの目を引き、ヨーロッパやインドなど新たなマーケットからバイヤーも多数ブリスを訪れ、東南アジア地域以外での札幌への関心の高さも伺えました。

シンガポールセミナー

IT&CMA2009に引き続き、10月9日(金)にはシンガポールにて日本政府観光局(JNTO)主催のインセンティブセミナーが開催され、大阪、名古屋、横浜等の観光コンベンションビューローとともに、インセンティブツアーを取扱う旅行会社及び企業約90社に向けてプレゼンテーションを行いました。セミナーでは、各都市のPRタイムの後、出席者と各都府市のブリスで個別に商談する時間が設けられ、札幌プールのブリスには、札幌といえ

札幌・北海道の MICE 振興へ関係者一丸!! 「さっぽろ MICE 推進検討会議」発足

去る9月1日(火)、国際プラザ、NPO 法人コンベンション札幌ネットワーク、札幌市内ホテル連絡協議会の3者で構成する「さっぽろ MICE 推進検討会議」の設立会議がロイトン札幌で開催されました。

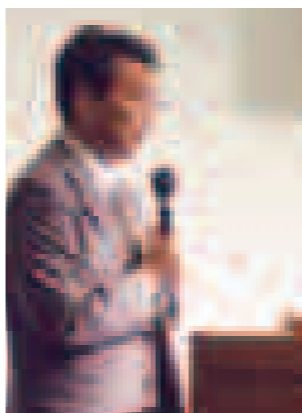


さっぽろ MICE 推進検討会議

政府観光庁は、今年7月「MICE 推進アクションプラン」を発表しました。MICEとは、ビジネス客が多数来訪する分野のことを国際的に総称する言葉 (Meeting・企業等のミーティング、Incentive・企業の報奨・研修旅行、Convention/Congress・会議、大会、総会、Event/Exhibition・文化・スポーツイベント、展示会、見本市の頭文字を並べたもの) です。が、外国人観光客の拡大、経済効果、国際貢献、地域の国際化の観点から大きな意義を持つものとして、MICE 推進に国を挙げて積極的に取り組んでいくこととしたものです。そこで、こ

の動きと連動して、札幌・北海道における MICE の振興発展には何が必要かを検討する「推進検討会議」を立ち上げました。来賓としてご参加の観光庁の大滝昌平 MICE 担当参事官からは、国際会議の状況や観光庁の今後の方向性などのお話をいただいたほか、全国に先駆けた札幌のこの動きを高く評価いただきました。この会議には、北海道運輸局をはじめ、関係省庁もオブザーバーとして参加。来年の APEC 貿易担当大臣会合の開催関係や国際会議誘致に向けた動きなどについて情報交換を行いました。

この後、会場を渡辺淳一文学館に移し、「観光庁 MICE 推進アクションプラン」北海道地区説明会を開催、関連企業など関係者約90名の参加がありました。大滝参事官からは、「来年を MICE イヤーとして、国内外への大規模なプロモーションを実施する」などの説明があり、また国際プラザ・アジア担当 MICE アドバイザの唐若 (Tang Jun) 氏からの最新の中国 MICE 状況についての報告など、MICE 関係者の情報共有・連携協力のきっかけとなるものとなりました。



大滝参事官

ミュンヘン・クリスマス市 in Sapporo 開催のお知らせ



リターナブル容器の使用と回収にご協力ください。

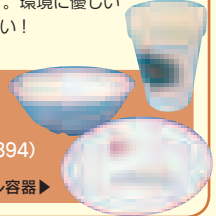
ミュンヘン・クリスマス市 in Sapporoでは、今回もリターナブル容器(洗って使いまわしができる容器)を使用します。写真のリターナブル容器は持ち帰らず、回収場への返却をお願いします。

なお、ビールなどの飲料についてはプラスチック製の透明カップを使用します。また、リターナブル容器の洗浄ボランティアを募集します。環境に優しいイベントを実現するため、ぜひ、皆様のお力をお貸しください!

<ボランティア活動のお申込み方法>

申込期間 11月1日(日)～12月23日(水・祝)
申込み先 札幌市コールセンター(電話: 011-222-4894)
受付時間 8:00～21:00

リターナブル容器▶



今年もイブまで開催!

札幌市とドイツのミュンヘン市の姉妹都市提携30周年を記念して始まった「ミュンヘン・クリスマス市 in Sapporo」も、昨年は50万人を超える方にお楽しみいただき、初冬の札幌のイベントとして大変好評をいただいております。

8回目となる今回の開催期間は過去最長となる28日間、今年もクリスマスイブまで開催します。恒例となったグリューワインやドイツ料理、伝統的なクリスマス飾りなどに加え、新しいメニューも続々登場!

また、毎年好評をいただいているオリジナルマグカップのほか、今年はオリジナルピンバッジも販売します。週末には、屋内外で楽しいイベントが盛りだくさん。このほか、毎週日曜日には『プレゼントデー』も開催。クリスマス市会場の商品をご購入いただいた方に、素敵なプレゼントが当たるチャンスです。何が当たるかはお楽しみに! 皆様のご来場をお待ちしています!!

開催概要

期間 11月27日(金)～12月24日(木) 28日間
時間 平日/12:00～21:00
(但し金曜日および12月22日(火)は21:30まで)
土曜日/11:00～21:30 日曜日/11:00～21:00
会場 大通公園2丁目 ホワイトイルミネーション会場
オープニングセレモニー 11月27日(金)16:30～
主催 ミュンヘン・クリスマス市 in Sapporo 実行委員会
ホームページ <http://www.city.sapporo.jp/christmas-market/index.html>

協賛金ご協力をお願い

ミュンヘン・クリスマス市 in Sapporoの実施には、応援してくださる皆様からの協賛金が重要な財源となっております。魅力あるクリスマス市を実施するため、皆様のご賛同と、協賛金のご協力をお願いします。

ご協力金額:1口 1,000円

※ご協力いただいた皆様には、会場で販売するミュンヘン・クリスマス市2009年度版オリジナルマグカップを1口につき1個進呈させていただきます。

賛助会員限定特別企画

賛助会員の皆様へ感謝の気持ちを込め、クリスマス市のオリジナルマグカップをお贈りしている賛助会員限定企画を、ご好評につき今年度も実施いたします。今回は、2009年のマグカップの引換券とクリスマス市会場内の店舗で使用できる購入補助券のセットを贈呈いたします。

詳細は、会員の皆様へ本誌と12月号プラザだよりをお送りする際の同封物をご覧ください。

今年の
マグカップ▶



25ヶ国以上の留学生と異文化交流、
多文化の共有を体験できる日本語学校です。

あなたのご都合に合わせた2コース
日本語教師養成講座

教育訓練給付制度適用

(コース修了後、授業料の20%、最大10万円が戻ります。)

- 専科(6カ月間集中)
- 本科(午前・午後)

説明会随時実施中!

※入学時期は4月、10月の年2回。
●無料で入学案内をお送り致します。お気軽にお問い合わせ下さい。



外国人のための日本語
JAPANESE FOR FOREIGNERS

■大学進学コース ■一般日本語コース

財日本語教育振興協会認定校

札幌国際日本語学院
Japanese Language Institute of Sapporo

〒064-0806札幌市中央区南6条西2丁目2番7号
地下鉄円山公園駅徒歩7分

TEL.011-562-7001 FAX.011-562-7002
<http://www.jli.co.jp/> E-mail: info@jli.co.jp